

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

尾瀬ヶ原散策と燧ヶ岳



尾瀬ヶ原と燧ヶ岳

闇のブナ林の中を進む。次第に傾斜が増すと、狭い沢の中の岩ゴロゴロの登りとなる。赤ナグレ岳を右に見る頃、やっとハイマツ帯の尾根筋に飛び出した。後は岩混じりの道を急登して8時、燧ヶ岳主峰・柴安嶺（2356m）に着いた。360度の眺望が素晴らしい。昨日辿った尾瀬ヶ原の広がりを一望に収め、その先に至仏山の勇姿、かなたには上州武尊岳、谷川岳、平ヶ岳、越後駒ヶ岳などが峰を連ねて見えた。

燧ヶ岳の今一つの山頂・俎嶺（2346m）は、東へ岩

8月上旬、尾瀬・燧ヶ岳（2356m）に登った。先ず尾瀬ヶ原を散策して原ノ小屋泊り、翌日は燧ヶ岳を見晴新道から登り、長英新道を下る計画である。

鳩待峠出発 12時。山ノ鼻到着 13時半。ここからいよいよ尾瀬ヶ原の湿原が始まる。ミズバショウは終わったが、そこここの池塘



ヒツジグサ

ではヒツジグサやオゼコウホネなどが今盛りである。時折、コバギボウシの鮮やかな紫色が目を惹

く。あっちでカメラを構え、こっちで図鑑を広げているうちに時間が経ち、原ノ小屋到着は16時とってしまった。

翌朝 4時出発。薄



原ノ小屋と燧ヶ岳

稜伝いに20分程のところにある。ここの眺望は東向き



俎嶺からの尾瀬沼

が良い。眼下の尾瀬沼の輝きの向こうに、奥白根山、男体山、太郎山などの日光の連山が峰を連ねる。北方には会津駒ヶ岳も遠望出来た。ゆっくり眺望を楽しんだ後は、長英新道を下った。11時半、長蔵小屋で昼食。暑さにバテてビールを飲む元気もなく、ガブガブ水を飲んだ。この辺り小屋周辺のニッコウキスゲの大群生には圧倒される。ニッコウキスゲの黄、尾瀬沼の青、燧ヶ岳の緑の取り合わせは正に一幅の絵である。

帰りは、三平峠を越えて大清水へ出た。この道がまた長い。暑さも暑し、くたびれ果てての大清水バス停の到着は15時となった。バスを待つ間のひと時は、何はともあれビールである。